

中学生のための子育て理解講座

趣 旨 当市では、出生数減少等の理由から乳児と接する機会がないまま成人を迎える若者が増加しています。その結果、他人とどう付き合えばよいのか、家族や他人への思いやりの気持ちや心が育ちにくくなっており、大人になった時には、どう我が子と接したらよいのか悩む保護者が増加しています。思春期の子ども達が赤ちゃんと触れ合う事によって、赤ちゃんや幼児のいることのすばらしさと「いのち」や「こころ」の尊さを実感することを目的としています。

実施主体 糸魚川市

参加対象 市内の中学2年生

参加者数 約30名

回 数 5回 **日 数** 1日 **時 間** 1時間

場 所 市内公立幼稚園・保育園

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	9月26日～10月24日のうち5日 10:00～11:00	赤ちゃんとの触れ合い体験を経験し、赤ちゃんや幼児のいることのすばらしさと「いのち」や「こころ」の尊さを実感する。	ボランティアのお母さんと赤ちゃん 保健師
1	内容・方法	<p>1. 当日までの準備（家庭科授業）</p> <p>(1) 中学校の家庭科の授業の一環として、幼稚園・保育園訪問を実施しています。クラスごとの家庭科授業中（クラスを4～5名のグループに分け、各年齢の子ども達とふれあい体験をします。）に園児と遊び、保育士、お母さんへ質問等を行います。</p> <p>(2) 子ども達にボランティアのお母さんへの質問（子育ては大変か？出産はどうだったかなど自由に）を考えてきていただいています。</p> <p>(3) 各自、自分が生まれたときの事、赤ちゃんの時どうだったか、どんな思いで名前をつけたのか家族に聞く機会を持ち、母子手帳があれば見てきてもらっています。</p> <p>2. 当日の日程（保健師が担当）</p> <p>(1) はじめのあいさつ（全体会） 終了後、グループに別れます。赤ちゃん組は、ボランティア親子と1室に入ります。</p> <p>(2) 中学生の自己紹介とボランティアの自己紹介赤ちゃんの抱っこの仕方についての説明（保健師）</p> <p>(3) ふれあい体験 （抱っこ、おんぶ、おむつ交換、ミルクあげ、あやす等 時にはおっぱいをあげているところを見せてもらったりしています（女生徒限定）。）</p> <p>(4) お母さんへの質問（あらかじめ質問を考えてきてもらっています。）</p> <p>(5) 終わりのあいさつ</p>	

成 果 ・ 中学生は、赤ちゃんに優しく接することができ、自分の成長を振り返り、父母の思いを確認できた。ボランティアのお母さんも成長する子どもの様子を我が子に重ねて確認でき、自分の子育てについて、自信ややる気、元気を吹き込んでくれるなど相乗効果は大きい。

課 題 ・ ボランティア親子の人数確保の問題等で中学生全員が体験できない。

問合せ先 糸魚川市教育委員会 生涯学習課 生涯学習係
〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮1丁目2番5号
Tel 025-552-1511(内線2335) Fax 025-552-7372 gakusyuu@city.itoigawa.niigata.jp

『父親の家庭教育講座』

趣 旨 子どもが健やかに成長するために、家庭を大切にする社会を目指して、家庭教育の重要性と父親の積極的家庭教育参加を支援し、家庭教育の充実を図る。

実施主体 三条市教育委員会

共 催 三条市PTA連合会

参加対象 小・中学生を持つ父親や子育て支援に関心のある方

参加者数 68名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 2時間

場 所 三条市中央公民館

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	12月5日（火） 午後7時～9時	『子どもの自立・おやじの子育て参加・ 家族の幸せ』	進路アドバイザー、 しばた父ちゃん子育て協力の会代表 大山正義
	内容 方法	○ 前半は、講師の自己紹介、「しばた父ちゃん子育て協力の会」の紹介、活動紹介や事例紹介等を行った。 ○ 後半は、「いじめ問題・子どもの自立」に関して、父親の役割と必要性を説き、子育ての最終目標は「子どもの自立」にあるという講義を行った。	

成 果

- ・ 講座終了後に行ったアンケート調査によると、「自分なりに考えていることが間違いでないことがわかった。」「改めて気づかされる点があった。」「いろいろ考えるいい機会になった。」「日常生活の中で気づかなかったことに気づかされた。」「子どもとのふれあいが大事と思った。」「今まで父親として接していなかったことに気づかされた。」等の意見が多く、日ごろ思っていることを改めて考えたり、確認できたりする良い機会になったことがうかがえる。

課 題

- ・ 父親の家庭教育講座に限らず、どの講座にも言えることだが、参加してくれる人々は、そのテーマに関心を持って高い意識で参加するので心配はなく、本当に聴いてほしいと思う対象の参加者が少ないのが現状である。今後は、そのような人々にも参加してもらえるように効果的な広報活動をしていく必要がある。
- ・ 参加者は、講師の一方通行な話だけでは物足りなくなっている様子もあるので、今後は参加者を巻き込んで対話形式で行ったりするなどの進行方法が求められる。

問合せ先 新潟県三条市教育委員会生涯学習課生涯学習係（TEL：0256-45-1113）

『子育てサポーター養成講座』及び『子育てサロン』

趣 旨	子育て支援に関する知識や技術を学び、「子育てサロン」のスタッフとして、子育てやしつけに関する悩みや不安を持つ保護者の相談相手となる人を養成するため。			
実施主体	三条市教育委員会			
参加対象	市内に在住・在勤の子育て支援に関心のある方で、講座終了後、ボランティアとして活動できる方			
参加者数	21名（延べ104名）			
回数	6回	日数	6日	
場所	三条市中央公民館		時間	12時間
内容				

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	9月19日（火） 午前10時～正午	『地域の現状』 ～子育てを支えるさまざまな取り組みと施設見学～	生涯学習課職員 社会福祉課職員
	内容 方法	○ 開講式 ○ 青少年育成センター「子育てサロン」とあいあい保育園「子育て支援センター」の見学	
2	9月28日（木） 午前10時～正午	サポート力①『子育て中の親との関わり方』 ～わかち合う、こたえるーコミュニケーションって何だろう～	心理カウンセラー 山川 洋子
	内容 方法	○ 受講生の自己紹介 ○ 肯定的な支援関係を築くための心得・条件等の講義を行った。	
3	10月4日（水） 午前10時～正午	サポート力②『話の聞き方・話し方』 ～話す、きくーコミュニケーションの実際～	心理カウンセラー 山川 洋子
	内容 方法	○ 3つの「きく（聞く・訊く・聴く）」の違いについて学んだ。 ○ 2人一組に分けれ、話し手・聞き手のロールプレイを行った。	
4	10月11日（水） 午前10時～正午	『音楽リズム遊び』 ～手遊び・歌遊び・音だし遊び～	音楽遊び指導者 小杉千穂子
	内容 方法	資料を基に、説明や実演を行った。	
5	10月17日（火） 午前10時～正午	『乳幼児の心と体の発達について』	済生会三条病院 小児科医長 千葉高正
	内容 方法	○ 乳幼児の「身体発達と精神発達」「定期予防接種」「注意しなければならない症状」を、資料に基づき説明した後、質疑応答を行った。	
6	10月25日（水） 午前10時～正午	『まとめ』 ～わたしたちにできる子育て支援～	生涯学習インストラクターの会
	内容 方法	○ ワークショップ形式で3つのグループに分かれ、「子育てをめぐる現状」「行政に望むこと」「これから子育てサポーターとして私にできること」について話し合った。 ○ 閉講式ー 修了証の交付	

成 果	<ul style="list-style-type: none"> 最終講のワークショップにおいて、たくさんの意見を聞くことができた。特に、子育て支援の場の提供に関して、施設を開放するだけでなく、利用しやすいように、迎える側の雰囲気づくりが重要であると認識することができた。また、16・17年度の修了生が運営する「子育てサロン」（子育て中の保護者の居場所・仲間づくりの場として週1回開設）のメンバーとなり活動している。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 受講生の中で意識の相違があり、積極的に子育てサポーターとして関わろうしている方、講義を受け自分の知識は高めたいがサポーターとしての活動には加わらないという方、無償ボランティアでは協力できないと思う方などがいらっしやるので、今後は募集の段階で、講座終了後の具体的な活動について明確にする必要がある。

問合せ先

新潟県三条市教育委員会生涯学習課生涯学習係（TEL：0256-45-1113）

公民館まるごと冒険ひろば

趣 旨 市内の子育てサークルのネットワーク（愛称：十日町子育て応援団）によるサークル活動のPRイベント

実施主体 子育て応援ネットワーク：とおかまち子育て応援団

参加対象 市内の子ども（概ね幼児～小学生）と家族

参加者数 約450名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 5時間

場 所 十日町市中央公民館

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	平成18年11月26日（日） 午前10時～午後3時	ネットワーク「とおかまち子育て応援団」に参加する市内子育てサークルの活動発表の場として、公民館をまるごと使ったイベントを開催。	ネットワーク：「とおかまち子育て応援団」の参加団体 ・すこやかランド ・おはなしたまてばこ ・十日町おやこ劇場 ・読み聞かせの会どんぐり ・ボーイスカウト ・保育サポーターいちご ・ぐりぐらルーム ・ドキドキランド ・なかよしランド ・十日町市子ども会連絡協議会 ほか
	内容・方法	<p>○各子育てサークルが、自分たちの活動を公民館内の部屋を使ってPRする。 ・館内ウォークラリー ・おはなし、読み聞かせの部屋 ・お手玉、あやとりコーナー ・おもちゃのかえっこショップ ・楽しいオカリナレッスンの部屋 ・ドッキン体験おぼけやしき ・クラフトコーナー ・積み木で遊ぼうの部屋 ・おにぎりを作って食べようコーナー ・子育てサークルの活動紹介コーナー（パネル展示）</p> <p>○イベント終了前1時間を使って、市民会館ホールに参加者が集まり、遊びの体験成果発表会（＝パフォーマンス広場）を行う。 ・オカリナレッスンに参加した子どもたちが、ステージで練習曲を披露。 ・飛び入りパフォーマンスコーナー 楽器（ピアノなど）や歌や芸など、ステージでスポットライトを浴びながら披露したい子どもたちがパフォーマンスを行う。</p>	

成 果

- 平成18年3月に立ち上げた子育て応援ネットワーク（愛称：とおかまち子育て応援団）のねらいの一つとして、子育てサークル間の連携を深め、活動を活性化しようという点があるが、このイベントの準備を通して、他のサークルの活動内容や雰囲気を知ることができ、団体間のコミュニケーションを図ることができたことは有意義であったと思う。
- イベント内容の工夫やPRを広く行ったこともあり、参加者が想像以上に多かった点は成果があり、参加団体のやり甲斐につながりよかった。

課 題

- このネットワークのもう一つのねらいでもある、自分たちの活動を広く市民に知ってもらおうという点においては、イベントのあり方をもう少し工夫するべきだったかもしれない。（催し間の連携のとり方など）

問合せ先 十日町市教育委員会生涯学習課（担当：根津正喜）
電話 025-757-8918

松代家庭教育フォーラム2006

趣 旨 地域住民が一堂に会し、子育ての現状や家庭教育・地域の教育力について意見を交換し、「地域ぐるみの教育」のあり方について考える。

実施主体 十日町市松代公民館

参加対象 松代地域で園児、児童、生徒をもつ保護者と教職員、地域住民

参加者数 約90名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 4時間30分

場 所 十日町市立松代中学校

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	平成18年11月5日(日) 13時30分～17時	「地域ぐるみの教育」の在り方を考える地域住民フォーラム テーマ： 「子育て みんなで考えよう・話そう・楽しもう」	●基調講演講師及び分科会アドバイザー： 子どもの虐待防止ネットにいがた代表 草間真由美 ●分科会アドバイザー： ・美農和英（松代地区松寿大学学長） ・志田中（新潟県栄養士会十日町支部長） ・高橋嵩一（十日町市教育委員長）
	内容・方法	○基調講演 講師：草間真由美 テーマ：「子どもの力を信じて」 ○分科会に分かれて意見交換 第1分科会 お父さん！あなたの出番…父親の子育て参画について考える 第2分科会 心も体も健やかになる食…正しい食習慣について考える 第3分科会 子どもは地域のたからもの…地域の教育力を考える 第4分科会 望ましい人間関係を育てる…コミュニケーションの在り方を考える	

成 果 ・ 当松代地域においては、地域住民が一堂に会して子育てについて考える機会が少なかったこともあり、子どもは地域ではぐくむもの、という意識の高揚という点においては、とても有意義な機会であった。

課 題 ・ 今回のフォーラムはきっかけであり、今後どういった取組みを継続していくかという点が課題である。

問合せ先 十日町市松代公民館（担当：上原孝幸）
電話 025-597-2301

青少年育成活動事業

趣 旨 学校、社会教育関係者等と連携をもって青少年の健全育成を図る。

実施主体 教育委員会、津南町青少年育成町民会議

参加対象 中学生、学校関係者、教育委員、民生委員、育成町民会議

参加者数 420名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 1時間30分

場 所 津南町文化センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	12月20日(水) 15:00~16:30	いじめについて青少年の問題意識の高揚を図る。	映画「かかしの旅」鑑賞
	内容・方法	学校の協力を得て、町内3校の中学生を一堂に会して、「いじめ」問題に関連する映画を鑑賞し、いじめに対する認識を深めた。	

成 果

- 学校、生徒、社会教育関係者を一堂に会して、いじめについて、考え、認識を深めることができた。また、社会教育関係者にとっては、生徒を身近に意識することができたことから、今後の青少年育成活動にとって大きな意義があった。

課 題

- 今回初めての試みとして、町内2中学校、1中等教育学校の全生徒での鑑賞おこなった。今後ともという声も聞かれるが、学校の協力体制、時期・時間、予算、ホールの収容数の関係、スクールバス関係などがあり、学校関係者との早めの検討や準備についての打合せが必要。また、鑑賞後の感想文については、なんらかの活用を検討したい。

問合せ先 津南町教育委員会 生涯学習班（島田 陽）
TEL：025-765-3134

家庭教育

趣 旨 子育てや家庭教育について考え、学ぼう。

実施主体 教育委員会、島田洋七講演実行委員会

参加対象 一 般

参加者数 430名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 1時間30分

場 所 津南町文化センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	11月18日(月) 18:30~20:30	講演「がばいばあちゃんの洋七流子育て論」	島田洋七
1	内容・方法	家庭教育、子育てについて、現在、各方面で話題の島田洋七先生を招いての講演会。実行委員会には、教育委員会、PTA連合会、育成町民会議が協力。	

成 果 ・ 笑いを含めての子育て、家庭教育論は盛況であった。講演後のアンケートには、気楽に聞けた、気持ちが軽くなった、久しぶりに笑った、家庭でも実践してみようの声もあり、好評であったことから夫婦、親子、家族間で話が弾んだことと推察している。

課 題 ・ 話題性のある講師・講演について、多数の参加を望む反面、ホールの客席数に制限があるため、広報方法やチケット数に悩んだ。

問合せ先 津南町教育委員会 生涯学習班（島田 陽）
TEL：025-765-3134

子育てひろば「親子わくわくランド」

趣 旨	小学校区を単位として、中地区管内4ヶ所で子育てひろばを開設している。自治体（公民館と保健センター）・地域の親子・自治体と地域を結ぶ民生委員が三位一体で活動することにより、単なる「親子遊び」や「育児サークル」の活動とは異なり、地域コミュニティの形成と親子の地域デビューとなる「地域の居場所」という位置づけて行い、スタッフ一同がそれを共通理解として活動している。
実施主体	中地区公民館、各地区主任児童委員及び民生委員、中地域保健福祉センター、地域のボランティア
参加対象	概ね2、3歳の未就園児と地域の保護者
参加者数	4会場合計で約160名
回 数	年9回×4会場
日 数	合計36日
時 間	合計72時間
場 所	臨港一町内会集会所、桃山園、中地区コミセン、大平第二自治会館
内 容	工作・運動会・クリスマス会などのテーマが毎月決まっているが、基本的な内容は各会場とも同じ あいさつ→自由遊び→お片付け→手遊び→お話のろうそく→テーマ遊び→おやつ（おやつ時間を利用しての保健指導など）→集団遊び→出席カード返却→あいさつ
成 果	<ul style="list-style-type: none">・ ボランティアスタッフがクッションとなっていることで、初めての参加者でも声掛けにより戸惑わずに済むような雰囲気作りを行っている。また、スタッフ一同が仲間作りが進むような工夫をしていることで、公園や近所で会った、民生委員と挨拶したという話や小学校の入学式で民生委員さんと再会したという話を聞くと、些細ではあるが地域コミュニティ形成の一部として機能しているようだ。・ 兄弟のいる参加者は、ボランティアが下の子の面倒を見ていることから、保護者と上のお子さんが一対一で過ごす事ができることにより上のお子さんが安定しているようだ。また、おやつ後の自由時間にボランティアがお子さんを見ていることで、保護者のリフレッシュにもなっている。・ たった月1回ではあるが、近所のお友達やおばさんたちと触れ合うことにより、子ども達が驚くほど社会性が身に付き、回数を経るごとに成長していることがわかる。また、保護者自身もお互いに声を掛け合ったり、地域に関心を持ったりする、といった変化も見受けられる。
課 題	<ul style="list-style-type: none">・ 親子遊び指導者とボランティアスタッフの後継者不足・ 親子遊び指導者に謝礼を払っているが、年間36回のプログラムは財政的に年々厳しくなっている・ 虐待発見という例はないが、保健センターからPRしてもらいながら本当に困っている方から参加してほしいのが悩ましいところだ
問合せ先	新潟市中地区公民館（担当 伊賀 佳代子） TEL：025-271-0017

家庭教育講演会

趣 旨 子どもの生きる力を育む出発点としての家庭教育の重要性や関心を高めるため、家庭教育講演会を開催する。

実施主体 新津教育事務所生涯学習課

参加対象 就学前の子どもを持つ親

参加者数 138名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 2時間

場 所 新津地域保健センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月14日（火） 10：00～12：00	～今 子育ての「わ」を～	新潟県立女子短期大学 教授 大桃伸一
	内 容 ・ 方 法	家庭や地域をめぐる状態が急速に変わってきている今、家庭は地域という大地の広がりから切り離され「植木鉢」のようにひとつひとつ孤立化して、他とのつながりをなくしている。植木鉢化した家庭が大地の広がりの中に帰るにはどうしたらよいか講義を行った。	

成 果 ・ アンケートの感想から、親子の信頼の確認、家庭のあり方、特に親としてのあり方について改めて考える良い機会であったと考えられる。

課 題 ・ 参加者は子育てに関心の高い親が中心となっている。子育てに関心のない人(親・地域)に対して、より多くの人に参加する講演会の工夫が必要。

問合せ先 新津教育事務所生涯学習課（担当 風岡ユノ）

TEL：0250-22-9666

家庭教育学級「やさしいママになるなる講座」

趣 旨 子供は優しいママが大好き！だから優しいママになるために・・・
 ・心や時間にゆとりをつくるために生活環境を自分自身から変えていく。
 ・様々な環境を乗り越えるために「自分で考える力」を養う。

実施主体 新潟市教育委員会 亀田教育事務所 生涯学習課

参加対象 子育て中の母親・子育てに興味のある方

参加者数 延べ 192名

回 数 5回 **日 数** 5日 **時 間** 10時間

場 所 新潟市亀田市民会館

内 容

講師：生涯学習開発財団認定コーチ 水科 江利子（全5回）			
回	期 日	テーマ	内 容
1	9月1日（金） 10:00～12:00	「あなたはどんなママですか？」	受講者自身の生活をふりかえり、まずは現状を認識してもらう。 自分のやさしい気持ちを出せない原因を考えてもらう。
2	9月8日（金） 10:00～12:00	「いつもゆったりしていたい」	ゆったりと子育てするにはまず「心のゆとり」が必要。心のゆとりはどこからやってくるのか？その為にはどのような環境を整えたらいいのかを受講者自身が考えます。
3	9月15日（金） 10:00～12:00	「いつもニコニコしていたい①」	自分の気持ちのある程度コントロールできれば、感情的になることも少なくなるのでは？自分を客観視する意義と技術を学びます。（セルフコーチング）
4	9月20日（水） 10:00～12:00	「いつもニコニコしていたい②」	前回の続き。
5	9月22日（金） 10:00～12:00	「やさしいママに大変身！！」	講座をふりかえり、受講者自身が見つけた原因と課題を再確認。これから自分でできる範囲の具体的な活動を設定します。

成 果

- ・ 講師はコーチング関係の方だったが、打合せの結果、スキルの学習ではなく、自分自身の考える力・生きる力を育むセルフコーチングに主眼を置きました。通常の子育て学習ではなく、自己啓発型の講座形式に受講者は当初、戸惑っていたようでしたが、こちらの意図が伝わるにつれ、積極的に取り組んでいただけましたようでした。
- ・ 講師が考えた解決策でなく、自分自身が原因を分析し、考えた解決策なので、取り組むモチベーションが高いようでした。

課 題

- ・ 講座終了後に、目的意識を失いそうな受講者に対してのフォローをする機会があれば講座で得たことをより効果的に活かせると思いました。
- ・ 講演形式の講座ではないため、一部の受講者は何をさせられるのか、その都度戸惑っていた。講座当初にもう少し主旨説明を詳しくするべきだった。

問合せ先 新潟市教育委員会 亀田教育事務所 生涯学習課（担当 伊藤 聡）Tel：025-382-3703

青少年健全育成市民大会

趣 旨 青少年健全育成の意識高揚と活動推進のため、家庭・学校・地域・行政が一体となって市民運動の発展を期する

実施主体 村上市青少年問題協議会

参加対象 青少年健全育成関係者・市民

参加者数 169名

回 数 1回 **日 数** 1日 **時 間** 3時間

場 所 岩船広域教育情報センター

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月23日（祝） 1：00～4：00	「地域の子どもは地域で育てよう」という視点に立ち、市民活動の充実を図る	少年院篤志面接委員 桂 才賀（落語家）
	内 容 ・ 方 法	○三年に一度の大会である。 ○少年の主張大会で最優秀・優秀の中学生3名の発表 ○少年院篤志面接委員の桂才賀（落語家）による記念講演 演題（子どもを叱れない大人たちへ） ○大会宣言の承認	

成 果

- 桂才賀氏の講演で本人が法務省少年院篤志面接委員を務める中で、収監された少年とのかかわりを通じ、子どもたちをしかることの大切さを指摘。「子どもを叱るときは、自分の怒りを静めること。叱ると怒るとは意味合いが違う。」ことを強調した講演を行った。参加者は、熱心に聞き入っていた。

課 題

- 子どもたちを取り巻く環境は、以前険しい状態にあるが、家庭・学校・地域・行政が手を取り合って健全育成にいかにして取り組むべきか、大会を通しての意識の高揚をはかったが、いかにして日常における意識の高揚を図るべきか、が課題であろう。

問合せ先 村上市生涯学習課（担当 本間正志）
TEL：0254-53-2111

のびのび学習教室「寺子屋」事業

趣 旨 自他を大切にしよう人間関係の醸成及び基礎学力の向上を目指す。

実施主体 五泉市教育委員会

参加対象 市内小学生（今年度は五泉小学校、村松小学校の4・5・6年生）

参加者数 19名

時 間 3.5時間

場 所 寺子屋五泉教室→五泉市総合会館
寺子屋村松教室→五泉市村松公民館分室

内 容 宿題、ドリル学習、講話、体験活動（パソコン、宿泊事業等）

方 法 個人のペースにあわせた指導により、学習意欲を引き出す。

成 果

- ・ お互いに助け合いながら学習する姿が見られる。
- ・ 個人に応じた指導により、苦手な教科にも意欲的に取り組んでいる。

課 題

- ・ 来年度は教室数が増えるため、指導者の確保が問題である。

問合せ先 五泉市教育委員会 生涯学習課 企画推進係
TEL 0250-42-5195 FAX 0250-43-4190

阿賀野市「サバイバル・ウォーク」

趣 旨

- ① 40 km を歩き通し達成感や成就感を味わう。
- ② 集団活動の中で仲間と励ましあう、協調性を養う、問題解決力を身に付ける。
- ③ 阿賀野市を巡りふるさとの良さを再発見する。
- ④ 他校生や協力してくれるボランティアとの親睦を図る。

実施主体

阿賀野市教育委員会 生涯学習課

参加対象

阿賀野市内の全中学生 42人

参加人数

42名

回 数

1回

日 数

1日

時 間

約12時間

場 所

阿賀野市内全域

内 容

回	期日・時間	テーマ	ボランティア等
1	10月8日(日) 6:30~ 18:00	○ 阿賀野市内40 kmを歩き通し、がんばれる自分・ふるさとの素晴らしさを再発見する。	・ 中学校職員 ・ 婦人団体 ・ 高校生 ・ 市民活動団体メンバー など25名
	内容・方法	○ 5~8人のグループを編成し、7つのチェックポイントを経由して40 kmを歩く。 ○ コースは瓢湖野外ステージ→安田公民館→笹神公民館「ふれあい会館」 →京ヶ瀬：京和荘→水原屋外運動場	

成 果

- ・ 参加した生徒全員が、長い距離や足の痛みに耐えながら40 kmを完歩することで成就感を味わいことができた。
- ・ 中学校の職員は当日の運営を一切行わず生徒と一緒に歩き、たくさん話しをする。そのためコミュニケーションを図る良い機会になったという声が多かった。
- ・ 中学校の職員をはじめとしたボランティアに、計画の段階から話し合いに参加してもらったことが、学社連携を進めるきっかけとなっている。

課 題

- ・ 参加者の確保に苦慮している。チラシやポスターによるPRだけではなく今年度同様に学校を訪問して、生徒集会で直接呼びかけるなどの工夫が必要。
- ・ ボランティアの協力なくして事業は行えないため、もっと協力者を増やしたい。その一方で参画してもらおうボランティアの意見・考えをどこまでくみとることがいいのか、その加減が難しい。

問合せ先

阿賀野市教育委員会 生涯学習課 社会教育係(塚野)

TEL: 0250-62-5322

市子連ジュニアリーダー研修会（2泊3日の夏合宿）

趣 旨 単位子ども会では体験できないことをする。また市内のいろいろな地区の子ども同士が交流し地区に戻ってからリーダーとなる子どもを育成する。

実施主体 佐渡市子ども会連絡協議会

参加対象 市内小学4年生～6年生 50名

参加者数 20名

回 数 1回 **日 数** 3日 **時 間** 51時間

場 所 カルトピアセンター素浜（羽茂地区）

内 容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	8月4日（金）～6日（日） 10時～15時	おもいきり夏と遊ぼう！ ～こんな体験してみよう～	
1	内 容 ・ 方 法	・開会式を行い子ども達を5班に分けてそれぞれ役割分担をつくり体験活動をはじめた。 ・4日は竹細工（ぶんぶん駒・けん筒・知恵の輪）を作り漁り火ウォーク。 ・5日はマリンスポーツ（バナナボート・ジェットスキー）テント設営（飯ごう炊飯）してキャンプファイヤーを行い「迎え火の集い」から「送り火の集い」を行った。 ・6日は小木半島海岸ウォークで13キロを歩いた。研修会の感想を書き閉会式。	

成 果 ・ 合併して初めての子ども会交流事業である。この交流会を終えての成果は、各地区の子ども達が友達になれたことと、家族と離れて生活しその中で自立心が培われたことである。また炎天下のなか13キロを歩く小木半島ウォークでは充実感と達成感を十分に感じたと思う。

課 題 ・ 夏休み中の日程調整が非常に難しい。
・ 事務局の職員自体がキャンプに不慣れ のため事業内容を計画するのに手間取った。

問合せ先 佐渡市教育委員会 生涯学習課 社会教育係
TEL 0259-27-4181 FAX 0259-24-1344